国会議員16人が出席

浄光会の新年総会開く

浄土宗

浄土宗関係の国会議員の集まりである「浄光会」の新年総会が、法然上人の命日にあたる一月二十五日夕、東京の赤坂プリンスホテル「クイーンホール」で開催された。

当日は国会の会期中で浄光会の会員総数四十七人のうち十六人が出席し、浄土宗の藤堂恭俊大本山増上寺法主、成田有恒宗務総長はじめ宗門関係者らと兵庫県南部地震の犠牲者の追悼法要と併せて法要を行ない「一枚起請文」を唱和するとともに、懇談のひとときをもった。

まず藤堂恭俊増上寺法主の導師による回顧、同唱十念の後、藤堂法主が次のような垂示を行なった。

「事件というものは予想しない大きなことが突如として起こりますが、それが今般の阪神大地震でございます。

私たちは今日の物質文明の中で安心して暮らしていたわけです。まるで高速道路を居眠りをしながら通っていたようなものですが、いったん間違いますと、とんだことになりまして、頼りにしておったものが頼りにならんということが目の前で証明されたということでございます。誠に恐ろしいことです。ただ単に物質に対する信頼感、あるいはまた安心感というものが砕けたというだけではなく、人間と人間との深いつながり、これも信頼感をもとにして社会の生活が安定し、豊かな生活ができるわけですので、先生がたも一つ、そういう温かい心の通うような姿勢を打ち出して頂きまして、この混迷する世界を一日も早く明るい和やかな温かい社会が到来しますように、どうか今後ともご尽力を賜わりたい」と述べ、同唱十念を行なった。

成田有恒宗務総長は、

「浄土宗では昨年二月、戦没者五十回忌法要で約五千人の檀信徒が海を渡り、その後、広島で二千人の檀信徒が集まり、さらに秋のハワイ開教百周年記念法要にも約二千人ものご信者がハワイへ渡った。

今年は四月に長崎の原爆五十回忌の他に行事がないと思っていたところが、阪神の大地震が発生しました。私どもが今まで把握した浄土宗の被害状況は、被災寺院が約百カ寺、そのうちに本堂倒壊、庫裡倒懐等、あるいは本堂半壊など重度の被害を受けられた寺院が三十数ヵ寺です。

われわれ宗務役職員が真っ先にお見舞いに駆けつけ、毎日、向こうの現地へ行っておりまして、ちょっとこちらでは想像もつかなかったことですが、被害を受けたお寺さんが毎日々々、大変忙しいそうです。というのは半壊した庫裡や境内に入っていらっしゃる避難民のために炊き出しをしたり、また被災地から掘り出されたご遺体を安置所に移す前に何としてもお経をあげて下さいとのご遺族の要望により、被災地に駆けつけなくてはならない、という大変な忙しさで、被災地の真ん中で勢力的に諸上人は動き回っているというご報告を連日承っております。

何が必要かとたずねると、まず白衣だというので、法衣店にさっそく注文して届けましたが、何しろ人手が足りない。というので、毎日、知恩院さんにもご協力を頂いて、現地に宗務職員を数名派遣するような手順をとっています。

中でも被害の大きかった東灘区西福寺の五十三歳の伊藤省三さんというご上人は、ちょうどあの大地震のあった午前五時四十五分に、本堂でお経を読んでいらっしゃった。そこへパタッと衝撃がまいり、本堂が全壊、その中でお亡くなりになった。ご家族の方は皆、新しい庫裡の中にいて助かりました。

われわれ考えまするに、本堂の崩壊とともにお浄土へ旅立たれるということは、やはり宗門人の本懐であるという解釈もできますし、また同時に我々の仲間がお浄土に向かう犠牲者の皆さんの先頭に立って旅立たれていくということ、誠に有り難いことであったと考えております。

深い追悼の意味をこめながら、同時にこの大地震を新しいスタートのきっかけにしなければいけないということ

をしみじみ感じております。
　本日は法然上人の御忌のご祥当の日です。考えますれば、法然上人のご生涯は、天災が一生涯、常に起こっていた中で法然上人はこのお念仏の教えをお広めになった。
　浄光会の諸先生には、国政を通じてこの日本人の心の、また前に向かって前進していく強いものをお与え下さいますようご尽力賜わりたい。私たち浄土宗も及ばずながら精いっぱいのことをさせていただきたい」
　と挨拶を述べた。

挨拶に立つ奥野誠亮衆議員議員［写真は省略］

先人の労苦軽視、国家の名誉汚す

謝罪決議阻止に力を

奥野議員

　浄土宗世話人の一人、奥野誠亮衆議院議員は、
　「私たちが心配しておりますことは、次代を担う青少年のいじめの問題がございます。小中学校で二万件を超え、また昨年、中学生がいじめにあって自殺をしたが、学校当局も知らなかったというように、いじめが陰湿化しています。こういうことが増えますと、大変大きな問題になるのではないかと心配しております。校内暴力は毎年増え続け、中学校や高校で五千五百件を超えている。また登校拒否が七万五千人にも上っているとのことです。
　こういうことを考えていると、社会のことで心配になるのは、どうも今の人たちは我々の先人の労苦を軽視していることが心配だ。あの戦争は侵略戦争だった、間違いだったと平気で言ったり、また終戦五十周年を機に国会で過去を反省して謝罪の決議をする、などというものですから、有識者が大変心配をしています。
　私たちはご先祖を浄土宗のお寺でお守りを頂いている。そのホトケを悪しざまに罵られるような社会にはしたくない。先人の労苦を軽んじ国家の名誉を汚す、こういう問題に対する反省を求める面におきましてもお力をお借りしたいなと思っているわけでございます」
　井上吉夫参議院議員＝「今回の大地震について、政府の対応が遅すぎる等のご指摘は確かにございましたけれども、これだけの大変な被害の中で、被災者の皆さんがたが本当に辛抱しながら、不平不満があっちでもこっちでも起こり暴動が起こるなどといった状況を全く見ないで済むということは、やはり大変なときにその民族のありようがわかると実感いたします。
　私はこのことにむしろ自信を深めながら、被害を受けなかった皆さんもできるだけの応援をし、一日も早く復興して、あの時にあんな大変な体験をしたけれども、意外に早く繁栄を迎えることができたなと実感できるようにしたい。
　そういう意味では、まさに天の啓示としてこの大事件をとらえ、日本民族のお互いの自信を深めながら、世界の国々から、日本という国はいろんな批判をしてきたが、やはり日本民族は素晴らしいといわれる国になることを目指して、一緒にがんばっていきたい。浄光会のメンバーの立場は一人々々違っていても、等しく日本の国をもっと素晴らしい国にしていこうという思いは同じですから、そういうつもりで仲良く、議論すべきは議論しながらも、もう一回がんばっていきたいと考えております」
　この後、落語家の三遊亭円楽師匠、國弘正雄参議院議員（リベラル）も挨拶した。
　出席した議員は、衆議院議員＝粟屋敏信（自)、石破茂（新進)、奥野誠亮（自)、金子原二郎（自)、小坂憲次（新進)、塩川正十郎（自)、住博司（自)、中馬弘毅（自)、中谷元（自)、中島洋次郎（自)、葉梨信行（自)、松永光（自)、簗瀬進（魁)、参議院議員＝井上吉夫（自)、國弘正雄（リベラル)、木暮山人（新進）の十六氏（順不同、敬称略)。

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)